

## 第78回 朝活かみいち 記録メモ

テーマ：聴覚障害者の生活と手話を学びましょう

進行役：竹脇幸子さん

日時：2017年9月28日(木)、7時～8時

場所：M's cloud (上市文化研修センター1F)

参加者：11人(町内5人、初参加0人)

### ◆プレトーク

進行役から皆さんに「聴覚障害者とのかかわりあり」についてワンポイントでお話してくださいとのリクエストに応じて、参加者からのお話を以下にまとめてみます。

・県外に行ったとき道が分からなくなったので、近くにいた人に道順を聞いたところ、聞かれた方は聴覚障害者にもかかわらず、一生懸命話していただきました。

・自分が子どもの頃に聴覚障害の子どもがおりました。当時、その人が元気でいてほしいと思っていました。そして今年(2017年)になっても、その人は元気です。今日の話を楽しみにしています。

・音楽ライブにて手話で通訳している。手助けする人たちの暖かさって良いものです。

・福祉系の学校に勤務しています。生活支援技術で手話の授業があります。この機会にこうした話に巡り合えてうれしい。

・自分自身、突発性難聴をもっています。手話を学ぶ時期なのかと思う次第です。

・障害者との出会いはありませんが、手話の必要性を感じています。病気になって人工呼吸状態になれば、手話で会話ということになりますので。

・手話を一年間習っていました。

・海外旅行ではジェスチャーでした。手話を知っていた方がいと感じました。

・スポーツ選手でも聴覚障害者は頑張ってます。数年前に甲子園に出場した関東一高では(プロに行った)オコエと一緒にプレーしていた聴覚障害のキャッチャーがおられました。

### ◆本番 (進行役が第一人称となっております)

まず自己紹介をします。手話に関心を持ったのが聴覚障害を扱ったドラマがあったからです(とっておられた気がしますが、聞き洩らし)。その当時、ドラマの影響で手話の理解者が増えました。

#### (1) 聴覚障害者 (以降障害者と略記もあり)

実際の障害は情報・コミュニケーションの面で現れるのは承知の通りです。そんな障害者は、「ろうあ者、ろう者、

難聴者、中途失聴者」と呼ばれています。

聞こえないとなぜ会話が難しいか。聞こえないと自分の発音がどうなっているか認識できず、結果しゃべれないということになります。

障害者は見た目では健常者と区別がつかまず、行動が不活発とはなりません。

#### (2) ろう者のコミュニケーション

コミュニケーションには補聴器の利用や口の動きの読み取りをいたします。

補聴器利用に際しては、すべての音が一度に(耳に入るために、音を聞くだけが主になり、とても言葉認識ができないのです。

#### (3) ろう者の生活

今は、何かにつけて視覚情報がふんだんです。これには、faxや携帯電話のメール、TVのテロップ・字幕などがあります。

車の運転免許は昭和48年に取得可能。補聴器をつけて10メートル離れて警音器が聞こえない方でも平成20年にミラーと標識を装着条件に免許取得が可能となりました。

病院でも、呼びベルや電光掲示板が障害者には大助かりです。

#### (4) 支援の良い面と悪い面

良い面としては、断然、情報・コミュニケーションがとりやすくなっています。出来る幅(行動範囲、行動内容)が拡大しています。

悪い面としては、障害者自身すこしわがままであり、また障害者サークルに集まらなくなっています。とにかく若い人が協会活動に参加しなくなっていることが気になります。

#### (5) 手話概要

発音せずに意思疎通を図るには、ジェスチャーと手話があります。ジェスチャーは身振り手振りの意思伝達で、海外旅行では結構多用された方も多いと思います。

手話については、日本語と同じ言語と考えてください。話し言葉(音声言語)ではなく、見る言語(視覚言語)ということです。

#### (6) 手話の実際

手話は魅力ある言葉です。手、口、表情が一体になったものです。

イメージするものによって表現が違ってきます。手のちょっとした動きによって意味が変わります。

また他の言語でまねできないことがあります。二つのことが同時に表現も出来ます。例えば本読みながらコーヒーを飲むという表現もできます。また何といても、

遠くにいる人にも伝えられますね。

#### (7) 手話実演

皆さんと一緒に「挨拶」を手話でやりましょう。その中で、寝るとか起きるとかの表現をいたします。(皆さんで挨拶の実演をしました。)

また電話については受話器をイメージして親指と小指を伸ばして受話器にみたくてます。携帯電話については、ひと昔は携帯のアンテナを指で表現しています。(などなど、実際の手話を披露されていました。)

#### ◆ まとめ

今回、聴覚障害の実態や手話の必要不可欠なことが理解できました。また竹脇さんの人柄が現れるかのようなおまとめとして、何よりも聴覚障害者とコミュニケーションができることが楽しい、と編者には伝わりました。

竹脇さん、みなさん、M's cloud の薄田さん、ありがとうございました。

#### ◆ アフタートーク、質疑応答

編者がすぐに退出したために、盛り沢山のトークを記すことができません。最初の時間帯で話されたことを列挙します。

- ・ 上市でも手話サークルがありますか  
→ あります。
  - ・ 手話表現を誰が決めているのでしょうか。  
→ 標準語的なものは「全日本ろうあ連盟」で考えています。富山県内のは「富山県聴覚障害者協会」で話しあって決めているものがあります。
- 人それぞれ話しかた言い回しが違うように、手話も個々で単語の表現が違っているものもありますね。
- ・ (世界共通ということで)国際手話がありますか。  
→ ありますが、日本では使っていません。
  - ・ 手話がいつ頃から確立されたのでしょうか。  
→ 明治時代にろう学校ができる前までは、手話という言葉はなく、明治 11 年にろう学校のようなものが開校した時に手話の前進みたいなものができたそうです。
  - ・ 美しい手話がありますか  
→ あります。泣けてきます。
  - ・ 通訳者試験もあります。



会場風景



進行役、熱弁